

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102275		
法人名	MCP株式会社		
事業所名	グループホームつどい八巻家(1丁目)		
所在地	福島県福島市上鳥渡字向山25-8		
自己評価作成日	令和3年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの施設は、グループホーム デイサービス 居宅の3事業所が一つの施設に入っております
 ご利用者様お一人お一人の個性を考えて生活の質を高めて、いけるよう3事業所連携を図りながら
 情報共有等を行って対応しております。その為、急変時等の対応にも円滑に行うよう協力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方々との連携・協力を考え、地域の行事に積極的に参加するとともに、事業所の行事に近隣の方に参加を呼びかけ感謝の気持ちを伝えるなど、地域密着型サービスの意義と役割を理解している。
 利用者の思いを把握し、介護計画や行事に反映し、入居前の生活や習慣を継続できるケアに取り組み、利用者一人ひとりが生きてきた歴史を尊重する取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念である「つどい10の約束」を見えるところに掲示し、実践できるように心掛けている。	朝の申し送り時に理念読み上げ、職員と共有している。理念が活かされ、町内会から行事案内や、交流の連絡などを貰い参加をしている。近くの店に買い物や散歩をして、利用者が地域のなかでその人らしく暮らせるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	普段の挨拶はもちろん地区の資源回収などに参加させて頂いている。また、地区の文化祭の時に利用者様の作品を出展している。	コロナ前は、民謡のボランティアの方や折り紙作りなどのボランティアに訪問してもらっている。クリスマスに幼稚園児が来所して歌や踊りなどを披露してもらい、交流している。毎年、事業所の感謝祭を開催し、地域の方に参加して貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話にて、事前予約を頂いて、ご家族様、地域の方の介護に関する相談を受けれる環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前のように、施設で運営推進会議を開催するのが、コロナウイルス感染防止の為、厳しくなってきた為、実践できていない。	会議で、併設のデイサービスと交流を図ってみてはという意見があり、レクリエーションに参加し、いつもと違う表情が見られている。今後は、利用者の生活を見てもらい、よりよい意見をもらえる環境を作りたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課の担当者や生活福祉課の担当者の方と電話などで連絡を取り合い、年に何度かは市役所へ訪問するように取り組んでいる。	日ごろから、長寿福祉課に出向き相談し、連携がとれるようにしている。感染症対策や地域のボランティア団体の情報を貰っている。FAXや電話でもらっている情報は、日々確認し運営に活かすようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設立し3カ月に1度開催し、その他にも勉強会を開催し、身体拘束防止に向けて取り組んでいる	身体拘束は基本的に行わない方針にしている。言葉による身体拘束に気づいた時は、職員同士で注意し拘束のないケアに繋げている。一人歩きする方には、好きなように自身のペースで歩いて貰い、見守りして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けていくとともに、ミーティング等で話す機会を持ち、振り返る事で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見人制度を利用されていた方がおり、今年度も後見人制度を検討しなければいけないケースがあったので、担当者に相談しに行っている為、把握し支援に向けて取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書にて、きっちり説明し契約を結んでいるまた、入所時に家族が求めることを確認し、出来る限り、希望に添えるよう検討する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情窓口の掲載利用の仕方を文章で示している 面会時ご家族様から相談や意見があれば記録している	会議には本人や家族の代表が出席し、意見や提案をもらっている。本人の、餅が食べたいとの何気ない発言を活かし、家族に協力を得て餅つき大会を開催することができている。安全に最大限の配慮をし、利用者・家族が楽しめる行事の運営に反映できている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員や管理者が気兼ねなく話せるような職場の環境を作り、職員からの意見や提案などは大切に考え運営に反映させています。	コロナ感染防止のため、行事が制限されていても、利用者が楽しめるレクリエーションを開催したいと職員より要望があり、実施に向けて取り組んでいる。研修に参加した職員に、講師として他の職員に学んだことを発表して貰い、向上心を高める取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境に合わせた勤務時間の対応。また、資格取得しやすい環境づくりに努めております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を開催しており、又コロナ前は、外部研修を、希望する職員や必要と思われる職員に対し研修をすすめており、研修内容はミーティング時など報告できる場を設け、情報を共有しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、WEB会議を行い、他の施設の管理者と意見を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実調にて、ご利用者様の状態、ご家族様のご要望を聞きケアプランの作成に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様の要望を聞き、利用者様の生活に反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調や契約時にご利用者様のご要望、ご利用者様の状態を把握し、ケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ること、出来ないことを理解し出来ることは、積極的に行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様と協力し、利用者様に必要な物を揃えたり、または、受診対応を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス前は、車でのドライブ、ご家族様との外泊でご利用者様の行きたい場所へ行けるよう努めておりました。	コロナ感染防止のため、現在は外出・面会は中止しているが、なじみの方からご利用者に電話がかかってきた場合は、話してもらい関係が継続できるようにしている。コロナ感染後は、馴染みの方々との面会・訪問を積極的に支援しようとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者様とのレクリエーションを通して、ご利用者様が一人である場面を少なくするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、電話相談等あればサポートできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員とご利用者が、一対一で過ごせる時間を持ちご本人の生活する上で悩みがないか把握に努めている。	その都度コミュニケーションをとり思いを聞いているが、家族との話のなかで、これまで把握できなかったその人の仕事の内容を知り、そのことを話題にしながら思いの意向を把握したりしている。利用者から居酒屋に行きたいという要望あり応え喜んでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、ご家族様面会時にご自宅ではどのような生活していたのかを聞いて、グループホームでも自宅のように過ごして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を生活記録にまとめて、本人が何が出来て、何が出来ないのか、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケアカンファレンスを実施し、各スタッフと意見交換をして、御家族様やご利用者様の要望に添った、ケアプランを作成している。	ケアカンファレンス前に、モニタリングとアセスメントを行い、家族にも話を聞き、その人に合った個別の計画作成に努めている。退院後は、相談員を通して状態を把握し、計画の変更をしている。長期目標が半年、短期目標を3カ月で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送りノートなどで、フロアやご利用者の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の要望ごとに臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設などと連携しながら、ご利用者様が花見などの季節に応じたレクリエーションを楽しめる環境を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の前にかかりつけ医になっている所はないかを確認し施設の往診か、どちらかを選択して頂いている。	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。定期の受診は家族にお願いをしているが、風邪などの突発的な時は事業所で対応できるようにしている。受診結果は口頭で伝え、面会時に検査結果のコピーを渡して共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への報告はこまめに行いご利用者様の体調に応じて、対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ前は3日に1回お見舞いに行き状態を把握しておりましたが、現在は相談員さんを通じてご利用者様の状態の把握をしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、かかりつけの医師、施設の看護師に状態を報告し、方針を共有し取り組んでいる。	重度化や終末期の対応についての指針を説明し、その時期が来たら相談の場を設け、家族と相談し要望をよく聞き対応している。コロナ感染前は家族に泊まって貰い、看取りを実施している。職員には、外部や内部研修に参加して貰い、適切に対応できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに添っての対応している。緊急時の対応方法はフロアミーティング等で定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに添って、いつでも対応できるように準備している。	消防署の協力を得て、地域の方に参加して貰い、避難訓練を行っている。訓練後、消防署からアドバイスをもらうようにしている。火災と、地震と水害を想定した訓練を行い、東日本大震災以降、水や食料を備蓄するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の声掛けはもちろん、居室に入る際も、ノックし入室の許可をいただき声掛けを心掛けている。	プライバシーや個人情報保護のため、職員には利用者の情報などを外部に持ち出したり、安易に話さないよう常に伝えている。丁寧な言葉で意思疎通を図り、誇りや尊厳を損なわないようにしている。利用者同士のトラブルには、職員が間に入り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物の時など、ご利用者様に必要な物はないかを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの食事、レクリエーションの時、声掛けはするが、参加するかはご利用者様のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を利用されている方は、同じものをスタッフが買いに行きご使用頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様にできる範囲で、お盆拭き、食器洗いななどをおこなってもらっている。	メニューは、医療食の専門家に依頼している。一人ひとりの食べる力に合わせて、刻み食やペースと食にしている。職員も利用者と一緒に、同じものを食べている。コロナ感染拡大前は、定期的に外食に出かけ、食事を楽しんで来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせりが多い、ご利用者様には、主食をおかゆ、副食は刻み、水分にトロミをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し口腔内の状態もチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に時間を決めてトイレ誘導を行っているが、お一人お一人の排泄パターンに合わせトイレ誘導をしている。	基本的に排泄はトイレでできるように支援している。排泄の自立に向けて、排泄回数が少ない方にはその人方に合った声かけを工夫し、排泄を促している。職員の適切な声かけや誘導で、オムツからリハビリパンツへ、現在は布パンツの方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	電話は自由に掛けて頂き、手紙を書く時には、スタッフサポートしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本としては、1日おきの入浴を実施しているが、ご本人様の体力に合わせて、ご本人様が拒否する場合は翌日などに変更し支援している。入浴剤の使用やお湯の温度も各個人に合わせてるように努めています。	できる限りその方の、今まで生活してきたリズムに合わせて入浴できるようにしている。入浴を嫌がる方には、無理をせず入浴を見合わせ翌日声掛けして入浴してもらっている。暖房器具を使い、浴室と脱衣所の温度差をなくし安全に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後などに、ご利用者様に確認をしながら、臥床していただく時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様お一人お一人の錠数を記入し、服薬する際、日付、ご利用者様の名前をスタッフ同士で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様のペースに合わせて、季節に応じたレクリエーションを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は外出のご希望があれば支援させて頂いていたが、現在は病院受診以外外出は中止にしている。	コロナ感染拡大前は、散歩のできる方は職員と一緒に出かけたり、買い物やゴミ捨てなどを一緒に行っている。これまで、季節に合わせた行事で外出を行っており、今後は状況を見ながら外出支援を再開したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、施設側で預かり、ご利用者様、ご家族様の要望に応じて、預かり金の中から、支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けて頂き、手紙を書く時には、スタッフがサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた、作品などを一緒に作り、それらを飾りつけに使用している。	一人ひとりそれ、それぞれが好みの位置に座り、自由に過ごしてもらっている。移動が安全にできるよう、余計な物を置かないようにしている。ウイルス対策として、職員には必ず出勤前に体温測定、手洗い消毒をして貰い感染症防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで塗り絵や点つなぎを行う方には、やりやすいよう、準備を行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にしながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	自宅で使用していた物品などは、ご家族様の協力のもと準備し、その人が落ち着いて過ごせる環境づくりを心掛けている。	その人の身体状況に合わせ、エアマットを使用したりしている。居室前に大きく名前を書き部屋を間違わない様にしている。清掃や衣替えなど、自分で出来ることは行ってもらい、必要時に職員が介助に入り、整理整頓し清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には名札を準備している、また、トイレや居室などに、見やすいように大きい字で書いてわかりやすいようにしている。		